

第1回

バロック歌唱法ってなに？

バロック時代の鍵盤楽器チェンバロと現代のピアノ、または、フラウト・トラヴェルソと現代のフルートでは、楽器の構造が違いますが、声楽家は、現代に生きている自分の身体を楽器として歌っています。
バロック音楽を歌うときには、何に違いがあるのでしょうか？

2011年12月17日(土)
開演 14:30

第2回

「新しい音楽」

バロック時代の最新情報

バロック時代の幕開け1601年に出版された、カッチーニの歌曲集「新しい音楽」には、バロック音楽演奏法の基本が詳細に記されています。
当時の文化人たちは、何を考えて、どんな美意識をもっていたのでしょうか？
現代の社会にも共通する大切なものは？

2012年2月25日(土)
開演 14:30

第3回

今に生きる私たちのバロック音楽
アモール・エ・アニマ

古代から西洋音楽は、神を賛美するための道具として発展しました。16世紀にヨーロッパ各地で起きた宗教革命は、バロック音楽に大きな影響を与えています。
最終回は、宗教曲と世俗曲の対比に触れながら、現代に生きる私たちが、なぜ遠い過去の外国音楽に魅力されるのか、探っていきます。

2012年3月20日(祝・火)
開演 14:30



加藤佳代子

<ソプラノ>

名古屋音楽大学、オランダ国立ズボレ音楽院声楽科卒業。同ティルブルグ音楽院古楽アンサンブル科にて学ぶ。ソリストディプロマ、教育者ディプロマ取得。
M.vonアルテナ、M.vanエグモント、L.メウセン、R.スチュワート、宇田川貞夫、大滝雄志、大野恵子、神田詩朗、佐藤豊彦、谷鈴代、牧野正人、渡辺順生、山田千代美の各氏に師事。
声楽と古楽器による室内楽のリサイタル多数、バッハカンタータシリーズ演奏会、サラマンカホールミュージックプロムナード他に出演。東海バロックプロジェクトメンバー



杉浦道子

<チェンバロ>

鶯谷高校音楽科を卒業後渡欧。
ルッツェルン音楽院、ローザンヌ音楽院ピアノ科卒業後、J.マルビル女史との出会いにより、チェンバロ科に入学。ローザンヌ音楽院チェンバロ科を卒業後ルガノ音楽院でも学ぶ。
カメラータ・ドゥ・ローザンヌのメンバーとしてヨーロッパ各地、アジアツアー等にも参加する。
ヴェルビエ・フェスティバル室内オーケストラ等、通奏低音奏者としても活躍。演奏活動の傍らカレッジ・シャンピにてピアノ講師を務める。
2009年夏帰国。東海バロックプロジェクトメンバー。



片岡博明

<フラウト・トラヴェルソ /
リコーダー>

名古屋大学卒業。フルートを野村 勤氏に、フラウト・トラヴェルソを中村忠氏に師事。これまでにバルトルド・クイケン、マルク・アンタイ、コンラッド・セュンテラー、ダニエル・ブリュッヘン、セルジュ・サイタ、ヤン・デ・ヴィネの各氏に指導を受ける。
1992、1994年にジョイントリサイタルを1995年以降毎年ソロリサイタルを行うなどソロ・室内楽を中心に多彩な演奏活動を行っている。
現在、ヤマハPMSフルート科講師。名古屋バロック音楽協会会員。東海バロックプロジェクトメンバー。

第1回、第3回のみ出演。

主な演奏曲目

- J.S. バッハ コーヒーカンタータ BWV211より
'ああ、なんてコーヒーはおいしいのでしょうか'
- G. カッチーニ 麗しのアマリツリ
- C. モンテヴェルディ あの蔑みのまなざし
- 高野辰之作詞 岡野貞一作曲 ふるさと
- 土井晩翠作詞 滝廉太郎作曲 荒城の月 他

会場のご案内 Fiorire フィオーレ

地下鉄東山線「中村公園」駅2番出口西へ徒歩1分
アンジュパティオ中村公園8階

*駐車場はございません。お車でお越しの方は、周辺コインパークをご利用いただきますようお願い申し上げます。

